

第4回

2025年9月14日(日)
13:30~15:00

令和7年度 特別企画
事前勉強会

大嶋奥津嶋神社

〒523-0087 近江八幡市北津田町5 2 9

参加者31名

第一部・講演会

「大嶋奥津嶋神社 沿革と宝物」

講師：深井宮司

大嶋奥津嶋神社 宮司



大嶋奥津嶋神社は、大国主神（おおくにぬしのかみ）をご祭神とする大嶋神社、奥津比賣命（おきつしまひめ）ご祭神とする奥津嶋神社が合祀された神社です。両社はもともと別々の場所にありましたが、1361年（室町時代）には現在の場所に鎮座したと考えられています。男神と女神を祀る2つの神社が仲良く並んでいることから、「夫婦円満」のご利益があると言われています。

社伝によると、第13代成務天皇が滋賀高穴穂宮に即位の際（131年）、武内宿禰に勅して勧請したのが始まり。それ以降1900年近い歴史をもち、「蒲生郡十一座」にも数えられています。

平安時代の作となされる木造大国主尊座像、平安時代から鎌倉時代の作とされる菊花螺鈿鞍・黒漆器・黒漆鎧があります。また、大嶋神社のご祭神である大国主命像（国の重要文化財）は等身大で見事なものです。また、境内には1878年に明治天皇が北陸に巡幸した折、当時の滋賀県令がむべを献上し詠んだ「大君にささけしむべは古き代乃（よの）ためしとしたふ民のまころ」という歌碑があります。

なお、弘長（1262年）に記された、他人の悪口や告げ口を固く禁じ、村人の団結を図った「村掟」である「大嶋百姓等庄隠規文」を含む大嶋奥津嶋神社文書（222通）1巻、32冊、3枚が国の重要文化財に指定されています。



春には4月の第3土日に例大祭が行われます。祭り本番前の1週間、大嶋奥津嶋神社の境内には北津田町の氏子がつったどんがら松明、若宮神社の境内には島町の氏子がつったほんがら松明が並びます。土曜の夜（宵宮）、太鼓の渡御を合図に、これらの松明に火が灯される様子は、迫力満点です。



大嶋奥津嶋神社

<https://ohshima-okutsushima.jp>

大嶋奥津嶋神社と「むべ」

昔、天智天皇が蒲生野に遊獵の際、奥津嶋神社に立ち寄り、8人の子どもを持つ、大変健康的な老夫婦に出会いました。天智天皇はこの夫婦に長寿の秘訣をお尋ねになり、老夫婦は「この地で取れる無病長寿の霊果を毎年秋に食します」と答えました。それならばと天智天皇もその果物を一口お召し上がりになり。

「むべなるかな（もつともであるな）」と一言仰いました、この時に発した「むべ」という言葉がそのまま果物の名前となり、以来、朝廷へ毎年献上されています。



前出のむべ家 HP
<http://www.nube.jp>



「むべ」とはアケビ科の一種。

春に白い花をつけ、秋に長さ7~9センチほどの鶏卵より大きい楕円形の実を結びます。むべを割ると半透明の粘りのあるゼリー状の果肉と種が詰まっています。

とろ〜つとした実はほんのり甘く素朴な味が楽しめます。

長寿を祝う贈り物に最適の果実です。

むべは蒲生野北部に位置する奥島山に自生し、蔓（つる）の長さが十五メートルにもなる常緑性低木。別名トキワアケビと呼ばれるようにアケビとよく似ています。違うところは、アケビは冬になると葉が落ちてしまうのに対して、むべは一年中緑を保ちます。

また、アケビの実は熟すと割れて、白い果実があらわれますが、むべの実を開くことはありません。そのために実に虫がつかないの で喜ばれ、庭に植えられることも多いものです。

また、この木の葉は、幼木のときは3枚、その後5枚、実が成る頃には7枚になるので、「七五三の縁起木」ともいわれています。

むべは、奥島山の各所に自生していたようで「むべ谷」「むべが原」「ムベ蔓山」の地名が残っています。

ちなみに、「むべ」という字は「くさかんむり」に「奥」という字「奠」を書きますが、「むべ」が奥津島に産する事から明治の頃よりこの字を当てていますが、古くは「郁子」と書かれています。

当サイトで販売しているむべは、近江八幡市の津田干拓地で栽培しています。30アールの広い畑に300本の苗木が植えられ大切に育てています。

ここでとれたむべは、皮、実を原料に飴やかき餅、酒やソーダなどの加工品に仕上げ、地域特産品として販売。

珍しさと長寿の商品として人気の輪が広がっています。

(前出のむべ家 HP より)

第二部・講演会

「島のまちづくり 権座とむべ」

講師：おおにし大西 みのる實 氏

島コミュニティセンター館長



権座（ごんざ）とは

ラムサール条約湿地にも登録された「西の湖」は、日本最大の湖「琵琶湖」の東岸に位置する「内湖」です。その西の湖にぽっかり浮かぶ島状の飛び地が「権座（ごんざ）」約 1.5ha の水田があり、今でも田舟で農業機械や米を運びながらの農業が営まれています。

かつては、内湖や琵琶湖沿岸には飛び地やクリークが散在し、田舟で田んぼに通う光景はごく当たり前のものでしたが、今ではこの「権座」を残すのみとなっています。

その希少性と、情緒豊かで美しくなつかしい風景が認められ、「国の重要文化的景観」や「にほんの里 100 選」にも選ばれました。

幻の酒米「滋賀渡船 6 号」

「渡船」は酒米の王様として名高い「山田錦」の親系にあたる酒米品種です。

昭和初期に滋賀県の奨励品種として県内で栽培されていましたが、背丈が高く、栽培が難しい上に収量も少なかったことから、長らく生産が途絶え「幻の酒米」と呼ばれていました。

しかし、2004 年（平成 16 年）に「JA グリーン近江酒米部会」が県農業試験場に残っていた一握りの種籾から「滋賀渡船 6 号」を半世紀ぶりに復活させることに成功しました。

「渡船」という銘柄は権座にうってつけであることなどから、白王町集落営農組合も酒米部会に所属し、2008 年（平成 20 年）から権座での作付けを始めました。

2009 年（平成 21 年）には「渡船」の個性を活かした純米吟醸酒『権座』ができあがりました。蔵元は「喜楽長」の銘柄で地酒通に広く親しまれている喜多酒造です。西の湖から「八風街道」を水源の鈴鹿山脈へと遡った愛知川（えちがわ）の上流、東近江市（八日市）にあります。



水の郷の文化薫る 米、酒、魚の物語。

国産食料の自給率向上
うまみ・栄養・健康に
役立つ米と酒の物語

「権座プロジェクト」の
全体イメージだ!!

1 「権座」ってどこにあるの? どんなところ?

ラムサール条約湿地にも登録された「西の湖」は、琵琶湖の東岸に位置する内湖です。その西の湖にぽっかりと浮かぶ島状の飛び地「権座（ごんざ）」には、約1.5haの水田があり、今でも田舎で農業機械や米を運びながらの農業が営まれています。かつては、内湖や琵琶湖沿岸には飛田やクレークが点在し、田舎で田んぼに遊ぶ光景はごく当たり前のものですが、今ではこの「権座」を残すのみとなっています。その希少性と、豊かで美しい風景が認められ、「国の重要な文化的景観」や「にはん」の第100選」にも選ばれました。

2 「滋賀渡船6号」って、どんなお米?

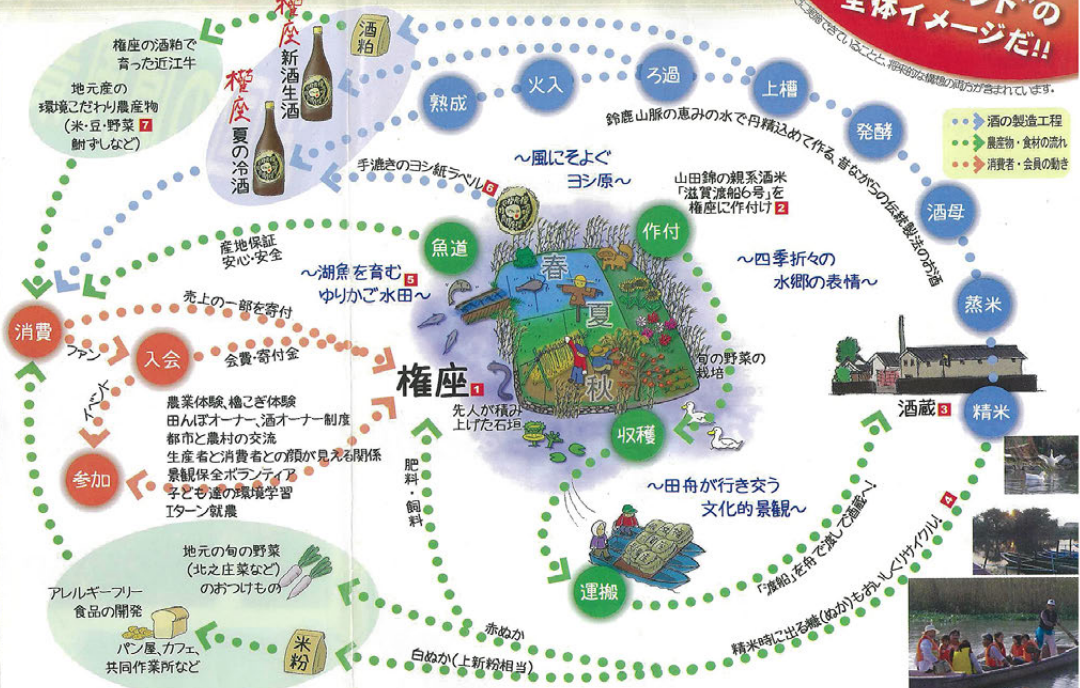
「渡船」は滋賀の王様として名高い「山田錦」の親系にあたる酒米品種です。昭和初期に滋賀県の湖国産米として県内で栽培されていましたが、育ちが高く、栽培が難しく上に出回ることがなかったことから、長らく生産が途絶えて「幻の酒米」と呼ばれていました。しかし、平成16年に「JICAグリーン」(JICAグリーン)が県農業試験場に現れていた一握りの種籾から「滋賀渡船6号」を半世紀ぶりに復活させることに成功しました。そこで、白王町集落堂農組合も酒米部会に所属し、平成20年から権座での月産に始めました。

3 創業文政3年、老舗の酒蔵・喜多酒造

「喜多酒造」の前身で地酒蔵に広く親しまれている「喜多酒造」は、西の湖から「八里街道」を水源の鈴鹿山脈へ通った愛知川(えちがわ)の上流に位置する蔵元。「和風良酒」の理念のもと、能登杜氏とともに、日本の伝統文化である日本酒の良さを守り続けておられます。純粋な酒蔵「権座」づくりには全面的にご協力いただいております。酒蔵の個性を活かした、安価な、こだわりの香り、美酒を、丹精込めて醸していただきました。

4 地域内資源循環(ゼロ・エミッション)

一般に、酒づくりには米の外側を削った際の部分のみを使います。たくさん削るほど「吟醸」「大吟醸」と呼ばれる高級品となるため、「日本酒は米の一部しか使わずもったいない」と思っている人も多くいますが、さながら「酒米は、米の外側から削る(赤ぬか)」「中ぬか」「白ぬか」「上白ぬか(上新粉と通色した品)」と4段階に分けて精米され、業者が買取りリサイクルしているのです。しかし私たち「権座」で収穫した「渡船」のぬかは業者が引き渡さず、地域の中でおいしくリサイクルする研究開発を、「白王町集落堂農組合女性部」をはじめ、授産施設・パン屋・カフェなど多くの方々の協力を得て行っています。副産物の付加価値を高め、幅広く活用することで、資源循環をしながら各協力店の売上向上にも繋がることを期待しています。



5 「魚のゆりかご水田」って?

琵琶湖や西の湖沿岸では、5月頃の雨後、フナ・コイ・ナマズなどの湖魚が大量に田んぼやヨシ地に遡上・産卵する光景が見られますが、今は湖岸も田んぼもコンクリートで固められ、産卵もブラックバスなどの外来魚に食べられ、音から殺しまれてきた湖魚が激減しています。そこで、「NPO法人 旅するおさかなリポーター」などの協力で権座の田んぼに「水田魚道」を設置し、在来の湖魚が産卵でき、稚魚が安全に育つ「ゆりかご水田」になりました。魚が元気に育つ田んぼで穫れるお米は人間にとっても安全です。

6 手書きのヨシ入り紙でつくったラベル

琵琶湖周辺のヨシ原もすくなく減りました。湖岸の開発に加え、人間がヨシを利用しなくなり、ヨシ地へ人の手が入らなくなったことも原因とされています。権座のある白王地区と隣り合う円山地区は、今でもヨシ産業を生業としている貴重な場所です。ヨシを保全・活用することは湖の生態系保全にも、水質浄化にもなります。純粋な酒蔵「権座」のラベルには、西の湖のヨシを混ぜた和紙を使っています。「やまびこ」(作業者)の跡を残した人たちが一枚一枚、心を込めて手書きで作ってくださっています。

7 白王(しらおう)の特産品

権座のある白王地区は、世帯数約50戸の農村集落。かつては半農半漁の自給自足生活でしたが、現在は集落堂農組合を組織し、町内一丸となって、水郷ならではの農業を続けています。そんな白王のイチオシ特産品は、まるまる太った黒豆! 「黒豆」も、とっても美味しいです。また「北之庄菜」も、この地域で専ら作られた伝統野菜として話題になりました。「権座の会」の会員になっていただければ、こういった四季折々の特産品も楽しんでいただけるよう、情報提供や特産品販売を行います。

権座・水郷を守り育てる会 HP
<https://gon-za.sakura.ne.jp>



うまい地酒を愉しんで
うまい魚菜を愉しんで
うまい空気を愉しんで

湖国の原風景をまもる!!

風景と文化を守って、ここにも、からだにも、心にもおいしかったんだ!

わたしのお酒を
みんなのお酒で
楽しもう

わたしのふるさと。
みんなのふるさと。

権座

ごんざ すいごう
権座・水郷を守り育てる会
— 活動案内 (2011年版) —